

委員長及び各委員 あいさつ

2018年7月、食品安全委員会の新たな体制がスタートしました。
山添委員、石井委員、村田委員が退任され、新しく川西委員、香西委員、吉田(充)委員が
加わりました。

食品安全委員会の これまでとこれから

2018年6月末で食品安全委員会設立から15年経過し、元服を迎えたと言えます。その間リスク管理機関からの諮問に対して、約2,550件の答申をし、「食品を加熱する時に生ずるアクリルアミド(自ら評価)」では、研究事業でばく露推計した上で評価を行いました。BMDやTTCなど新たな評価方法の導入も始まっています。これまで以上に適切な評価を進めるとともに、ITを使った情報発信や勉強会、講座などを通して、食品安全に関する理解の浸透や知識の普及を図っていきたくと考えています。

略歴

東北大学大学院医学研究科博士課程修了後、東北大学医学部助手等、独立行政法人国立環境研究所理事を経て、2012年7月食品安全委員会委員、2015年7月より食品安全委員会委員長。

さとう ひろし
委員長 佐藤 洋



食品の安全性向上に 役立つことを願って

やまもと しげき
委員長代理 山本 茂貴



食品安全委員会の設立準備段階から関わり、プリオン専門調査会の委員として設立当初からBSEのリスク評価に携わってきました。大学や研究所では、食品中の有害微生物の制御に関する研究や微生物学的リスク評価に役立つデータの収集、解析を行ってきました。食品安全委員会委員としてプリオンや微生物、かび毒などの評価を担当します。委員会での活動を通じて、食品の安全性の向上に貢献できることを願っています。

略歴

東京大学大学院農学系研究科獣医学専攻修士課程修了後、国立医薬品食品衛生研究所食品衛生管理部長、東海大学海洋学部教授を経て、2017年1月より食品安全委員会委員。

合理的でわかりやすい 食品のリスク評価を 目指して

かわにし とおる
委員 川西 徹



昨年度まで国立試験研究機関で医療製品の品質・安全性・有効性評価、及び食とくらしの安全のための試験研究に長年携わってまいりました。食品安全委員会では、担当する専門調査会(添加物、器具・容器包装、遺伝子組換え食品、新開発食品等)を中心にその審議内容や結論が広く関係者の皆様にとって合理的かつ分かりやすいものとなるように努めさせていただくとともに、新技術等を利用した食品のリスク評価手法を皆様方と議論しながら確立・導入し、リスク評価を精緻化するよう努めたいと考えております。

略歴

東京大学大学院薬学系研究科修士課程修了後、国立衛生試験所(現国立医薬品食品衛生研究所)入所、薬理部、病理部、生物薬品部、薬品部、副所長、所長を経て、2018年7月より食品安全委員会委員。